

と畜検査で発見される病気

豚編 No5 豚丹毒症



豚丹毒菌，縮毛状である

☆ どんな病気なの？

豚丹毒は豚丹毒菌の感染によって起こる病気です。豚丹毒は人畜共通感染症として古くから知られる病気であり、豚では依然として発生数が多く（当検査所でも豚の全部廃棄疾病の圧倒的 No1 です）養豚業に経済的損失を与えるため、大きな問題となっています。

☆ 豚丹毒菌について

豚丹毒菌 (*Erysipelothrix rhusiopathiae*) は自然界に広く分布し、豚やいのしし等の哺乳類、鶏や七面鳥等の鳥類、魚介類等から分離されることが知られています。この菌に対する感受性は豚が一番高いですが、人も豚丹毒菌により、類丹毒という病気を起こします。類丹毒は傷口から豚丹毒菌が侵入することにより感染し、皮膚炎や関節炎を発症させ、最悪の場合は敗血症に陥り死亡します。この病気は職業病の様相が強く、獣医師、畜産業従事者、漁師などに多く感染事例がみられます。

☆ 豚丹毒症

豚丹毒症は病態から以下の4つに分類され、それぞれの病型は血清型との関連が深いとの報告があります。

- ①急性敗血症型（全身感染をおこしている状態で、肝臓や脾臓が腫大し、致死率が高い）
 - ②亜急性蕁麻疹型（皮膚に菱形疹と呼ばれる菱形のあざができる）
 - ③慢性心内膜炎型（心臓弁膜に細菌塊（イボ）ができる、敗血症の治癒後に見られる）
 - ④慢性関節炎型（関節の腫大、絨毛の増勢がみられる。生ワクチンとの関連が噂される）
- と畜場で発見されるのは関節炎型が圧倒的に多く、次いで心内膜炎型と蕁麻疹型であり、敗血症型は致死率が高く、と畜場で発見されるのはまれです。

☆ 豚丹毒症の予防について

豚丹毒の感染経路として経口感染、創傷感染などがありますが、この菌は熱や消毒薬に弱いので、衛生的な施設での飼育が豚丹毒予防の基本です。また現在ではワクチンの普及により発生数が減少傾向にあることからワクチン接種は効果的ですが、生ワクチン由来と疑われる関節炎の発症が頻発することがあるので、適正に実施するよう注意が必要です。

敗血症型



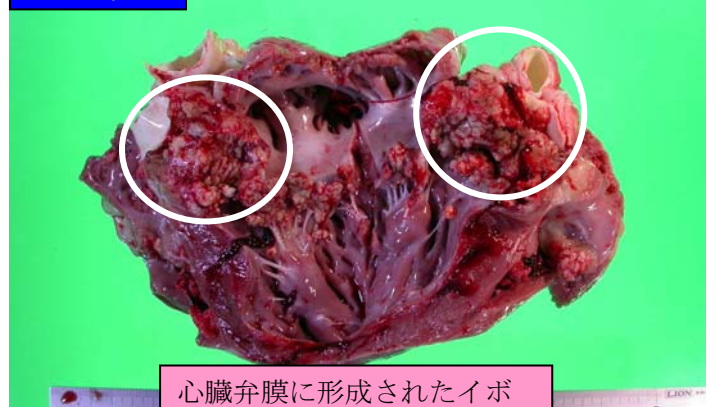
敗血症によって腫大した脾臓

蕁麻疹型



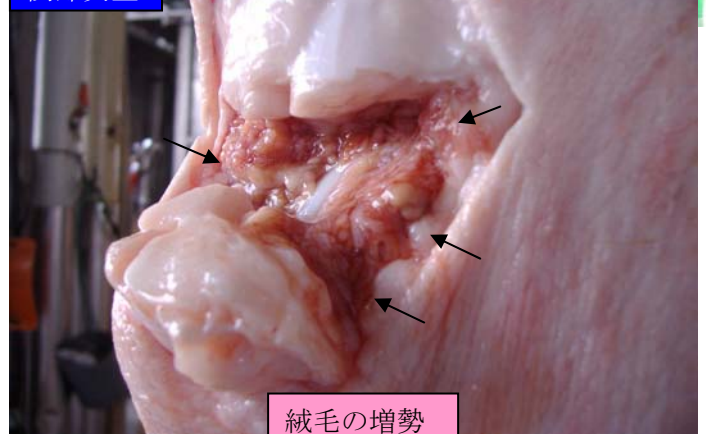
菱形疹，もりあがりのある湿疹

心内膜炎型



心臓弁膜に形成されたイボ

関節炎型



絨毛の増勢